

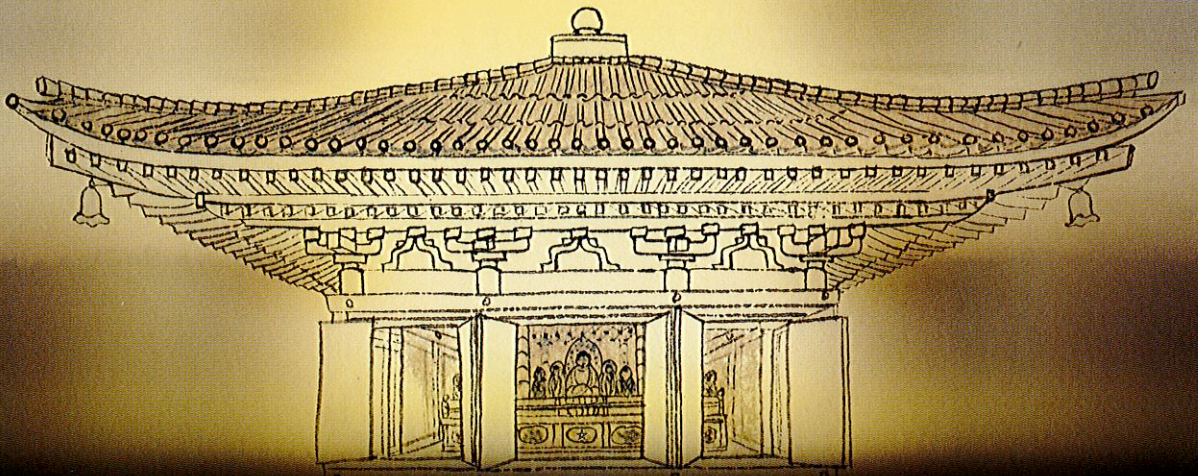
東日本大震災復興支援

舞踊詩

黄金の道



■ 主催 若柳流宗家



舞踊詩

黄金の道

國

■平成二十五年十一月十九日(火) 午後二時開演
■東京国際フォーラム ホールC

一、長唄舞踊

橋 弁慶

初代 若柳 吉藏 振付

武藏坊弁慶

若柳 吉藏

牛若丸

中村 壺太郎

謡曲の「橋弁慶」を舞踊化したもので、牛若丸(源義経)が五条の橋の上で大長刀を持った弁慶と出会います。はじめ牛若丸を女と思った弁慶が通り過ぎようとする、牛若丸に長刀を蹴られ、怒った弁慶はこの少年にいどみかかりますが、飛燕のように素早い身のこなしの牛若丸に翻弄され、ついには降参し、主従の関係を結ぶという勇ましい舞踊です。

二、長唄舞踊

勸 進 帳

若柳 吉金吾 振付

武藏坊弁慶

若柳 吉藏

源義経

花柳 基

富樫左衛門

尾上 菊之丞

能「安宅」を歌舞伎舞踊として七世市川團十郎が初演し、九世團十郎により洗練されて歌舞伎十八番となり今日に至っています。近年に舞踊化された例は少なく、平成十四年、若柳吉蔵リサイタルにて素踊舞踊として発表しました。
兄頼朝に追われた源義経が、武藏坊弁慶以下わずかの手勢を引き連れ、藤原秀衡を頼り、奥州へ落ちていく途中の加賀の国・安宅の関での、義経、富樫、弁慶三者の心情を表現した「歌舞伎」演目の舞踊化です。

三、筑前琵琶

散る花草紙

— 奥州下り —

水口 一夫 作詞
上原 まり 作曲

筑前琵琶

上原 まり

奥州藤原氏を頼って落ちのびようと、山伏姿に身をやつし、弁慶をはじめ義経主従は北陸路を北へ向かい、安宅の関では関守富樫に見咎められるも、弁慶の咄嗟の機転で危機を逃れ、奥州平泉をめざしました。野にふし山にふし、一行は出羽の国信夫の里に辿りつきます。そこは壇ノ浦の合戦で討ち死にした佐藤継信の故郷でした。義経は継信の母尼公に逢い継信の戦での働きを物語り、戦死の詫びを伝え、一行は歩みを速め平泉に到着します。

四、創作舞踊劇

清 きよひら 衡

高橋 克彦 原作「炎立つ」より
水口 一夫 作・演出

藤間 勘十郎 振付
吉 舟 作曲
前田 剛 美術

藤原清衡

片岡 愛之助

源 義経
経清妻結有

中村 壺太郎

清原武貞
清原真衡

花柳 基

清原家衡

花柳 源九郎

五條 詠 絹

五條 珠太郎

花柳 喜衛文華

花柳 吉史加

花柳 寿々彦

花柳 静久郎

花柳 昌鳳生

義経主従は、兄頼朝にうとまれ、奥州藤原秀衡を頼って落ち延びましたが、秀衡の死後、息子泰衡の兵に囲まれ、今やこれまでと覚悟を決めます。

その義経の前に忽然とあらわれたのは、藤原清衡の霊でした。清衡は父経清、叔父貞任が、源頼義、義家親子、清原武則と戦って討死した前九年の役の様子を語り、さらに、その後母結有との苦勞の末、清原を滅ぼし、奥州を統一、父経清の望みであった奥州の平安と黄金樂土を築きあげたことを物語ります。

結有母沙羅

若柳 吉金吾

花柳 侑希紫瑞

源義家

尾上 菊之丞

坂東 はつ花
藤蔭 静 寿

武蔵坊弁慶

若柳 吉 蔵

藤間 豊 彦
藤間 直 三

(五十音順)

義経は清衡の教えにより、戦うことの愚かさを悟り、奥州の地を、民を戦火に巻き込まないため、落ち延びる決意をします。そして弁慶一人が追手を一身に引き受けます。

出 演



片岡 愛之助

昭和47年生まれ。昭和56年十三代目片岡仁左衛門の部屋子となり、片岡千代丸を名乗り初舞台。平成4年片岡秀太郎の養子となり、六代目片岡愛之助襲名。上方和事から荒事まで幅広くこなす。平成20年に上方舞の四大流派に数えられる榎茂都流の家元を継承し、三代目榎茂都扇性を襲名。また近年は、映画・テレビ等に活躍の場を拡げている。



中村 志太郎

平成2年生まれ。中村翫雀の長男。祖父は坂田藤十郎、母は日本舞踊吾妻流家元吾妻徳彌。平成7年大阪・中座で「唄山姥」の公時で初代中村志太郎を名乗り初舞台。16歳で「鏡獅子」、19歳で「封印切」の梅川、清新な演技で「曾根崎心中」のお初を演じる。平成23年度咲くやこの花賞、文化庁芸術祭新人賞を受賞。

尾上 菊之丞



昭和51年生まれ。二代目尾上菊之丞(現墨雪)の長男。平成2年尾上青楓を名乗る。平成23年尾上流四代家元を継承し、三代目尾上菊之丞を襲名。自身のリサイタルをはじめ、歌舞伎俳優や他分野の芸術家との幅広いコラボに挑戦。舞踊批評家協会新人賞・花柳壽應新人賞を受賞。歌舞伎や宝塚の振付も手掛ける。



五條 詠 絹



五條 珠 太郎



花柳 喜衛文華



花柳 吉 史加



花柳 寿々彦



花柳 基

昭和39年生まれ。母は花柳秀。芸術選奨文部科学大臣賞、花柳壽應新人賞、舞踊批評家協会賞、松尾芸能賞舞踊新人賞等数多くの受賞歴があり、古典舞踊から創作舞踊まで手掛け、高い評価を受けている実力者。欧米、南米、中近東、アジアでも公演し、日大芸術学部、日体大武道科、埼玉芸術総合高校で非常勤講師。



花柳 源九郎

昭和56年生まれ。父は花柳智人。平成10年、花柳源九郎となる。平成15年、東京芸大卒業。現在四世宗家花柳寿輔に師事。「供奴」で大阪府知事賞、「雨の五郎」で新進舞踊家競演会の新人奨励賞、「流星」にて文部科学大臣奨励賞を受賞。次代の舞踊界を担う若手のホープ。海外の舞踊公演にも出演。



若柳 吉金吾

昭和22年生まれ。昭和54年、若柳吉金吾を襲名、三世宗家の直門となる。神戸市文化奨励賞、兵庫県芸術奨励賞、兵庫県文化賞を受賞。超一流のスタッフを招いて、昭和62年より、リサイタルを開催。ハワイ、香港、ローマ、韓国など海外での公演にも多数参加。古実に詳しく、宗家若柳流を支える高弟。



上原 まり

神戸市出身。筑前琵琶演奏家。宝塚歌劇団花組の娘役トップスターとして活躍。退団後は筑前琵琶奏者として、ライフワークの「平家物語」をはじめ、多彩な演奏・創作活動を展開。CDに「平家物語（ビクター）」、「耳なし芳一（キング）」、「源氏物語（キング）」など多数。著書に「平家巡礼」他



若柳 吉蔵

昭和45年生まれ。若柳流五世宗家。父は二代目若柳寿童。昭和62年に若柳吉蔵を継ぎ、平成15年五世宗家を襲名。父の高弟竜二郎、吉金吾に学ぶ。平成15年、京都市芸術新人賞、平成20年文化庁芸術祭優秀賞、平成21年松尾芸能賞舞踊新人賞受賞。京都・宮川町の「京おどり」の振付・指導を担当。



花柳 静久郎



花柳 昌風生



花柳 侑希紫瑞



坂東 はつ花



藤陰 静 寿



藤間 豊 彦



藤間 直 三